

統合失調症患者の薬物療法に関する 処方実態調査(2020年) その1

～ 2020年度の処方調査の総括
および

入院患者におけるベンゾジアゼピン系薬剤処方の
2018年度との比較についての考察 ～

○石郷岡病院 鈴木 貴子

精神科臨床薬学(PCP)研究会

高田 憲一、北川航平、佐藤 康一、宇野 準二、天正 雅美、
加藤 剛、梅田 賢太、三輪 高市、野田 幸裕、吉尾 隆

倫理的配慮

本調査や解析では個人情報を慎重に取扱い、十分に倫理的配慮を行った。

利益相反(COI)開示

筆頭発表者名: 鈴木 貴子

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

目的

- 精神科臨床薬学研究会（以下、PCP研究会）会員の所属する施設に入院中の統合失調症患者について処方調査を行い、「抗精神病薬」、「抗パーキンソン薬」、「抗不安・睡眠薬」、「気分安定薬」の投与量、投与剤数など、薬物療法の実態を把握することを目的とする。
- 本報告（その1）では、
 - 調査結果（各薬剤の1日平均投与剤数・投与量）
 - ベンゾジアゼピン（BZ）系薬剤と新規睡眠薬の処方動向の変化
 - 抗精神病薬とベンゾジアゼピン（BZ）系薬剤の併用率と投与量の関係について報告する。

方 法

● 対象

PCP研究会会員の所属する全国80施設に入院中の統合失調症患者 10,106人

● 調査日

2020年10月31日

● 調査項目

年齢、性別、身長、体重、1日当りの服薬回数、服薬指導(実施・未実施)の有無、抗精神病薬(含デポ剤)、抗パーキンソン薬、抗不安・睡眠薬、気分安定薬の投与剤数と投与量(*量レクスピプラゾール、ブロナンセリンテープ、ルラシドンは解析から除外)

● 統計解析

2群の平均の比較はt検定、比率の比較は χ^2 検定を行った

調査対象プロフィール

	2018年	2019年	2020年
施設数	86	87	80
患者数 (男/女)	11,727 (5,858/5,869)	11,589 (5,767/5,822)	10,106 (4,972/5,134)
年齢 (min-max)	59.1 (9-103)	59.2 (9-100)	59.1 (9-101)
服用回数 (min-max)	3.3 (0-13)	3.2 (0-12)	3.2 (0-9)
服薬指導実施率 (実施/未実施)	25.6 % (2,399/6,967)	28.9 % (2,827/6,956)	29.8 %* (2,295/5,400)

* p<0.05 対2018年, χ^2 検定

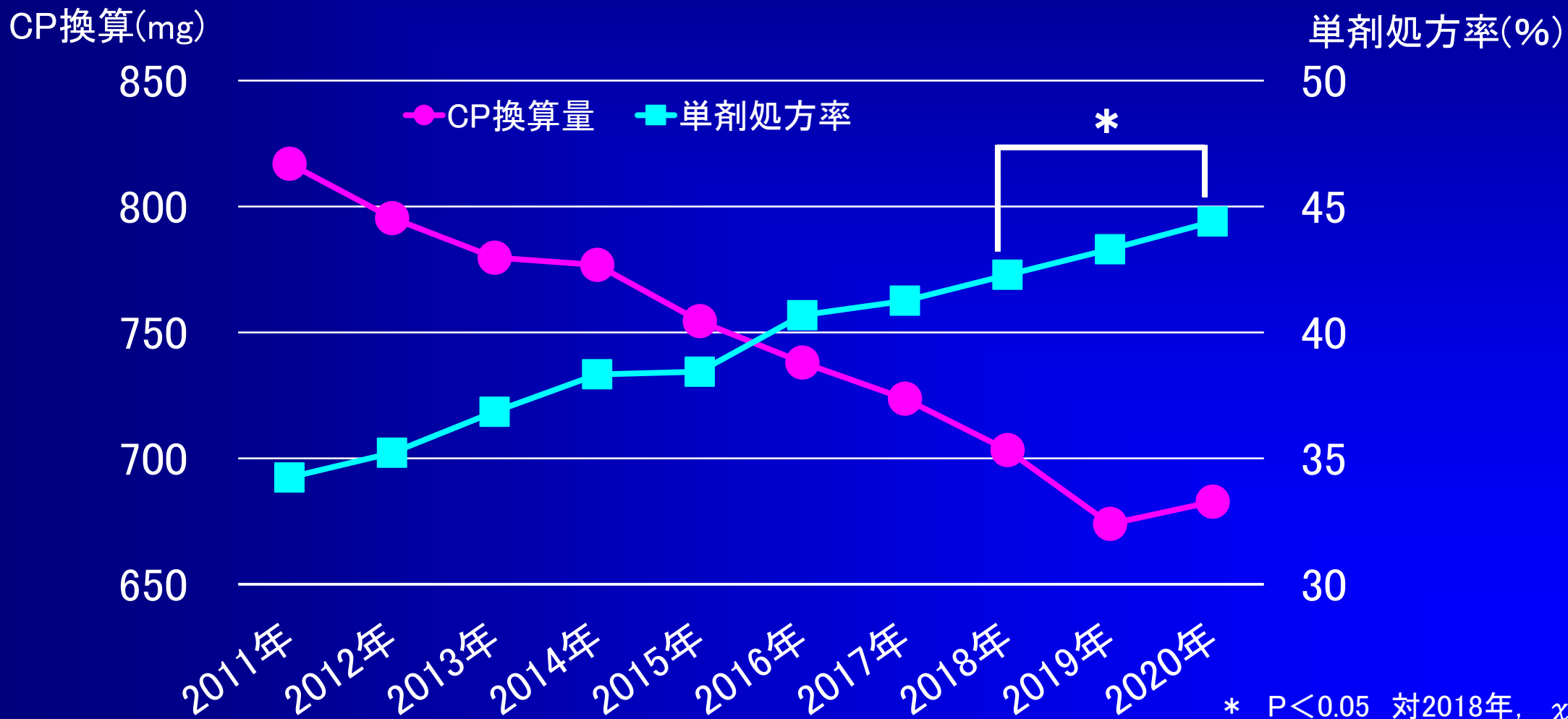
各薬剤群の剤数と投与量

		2018年	2019年	2020年
抗精神病薬	剤数 (剤)	1.7	1.6	1.6 *
	CP換算 (mg)	703.3	674.0	682.8 *
抗パーキンソン薬	剤数 (剤)	0.4	0.4	0.4
	BP換算 (mg)	1.0	1.0	0.9 *
抗不安・睡眠薬	剤数 (剤)	1.1	1.1	1.0 *
	DAP換算 (mg)	9.1	8.1	7.8 *
気分安定薬	Li (mg)	548.0	535.3	544.0
	CBZ (mg)	442.0	460.4	442.8
	VPA (mg)	653.6	650.6	650.2
	ラモトリギン (mg)	168.8	186.7	195.7 *

* p<0.05 対2018年, t検定

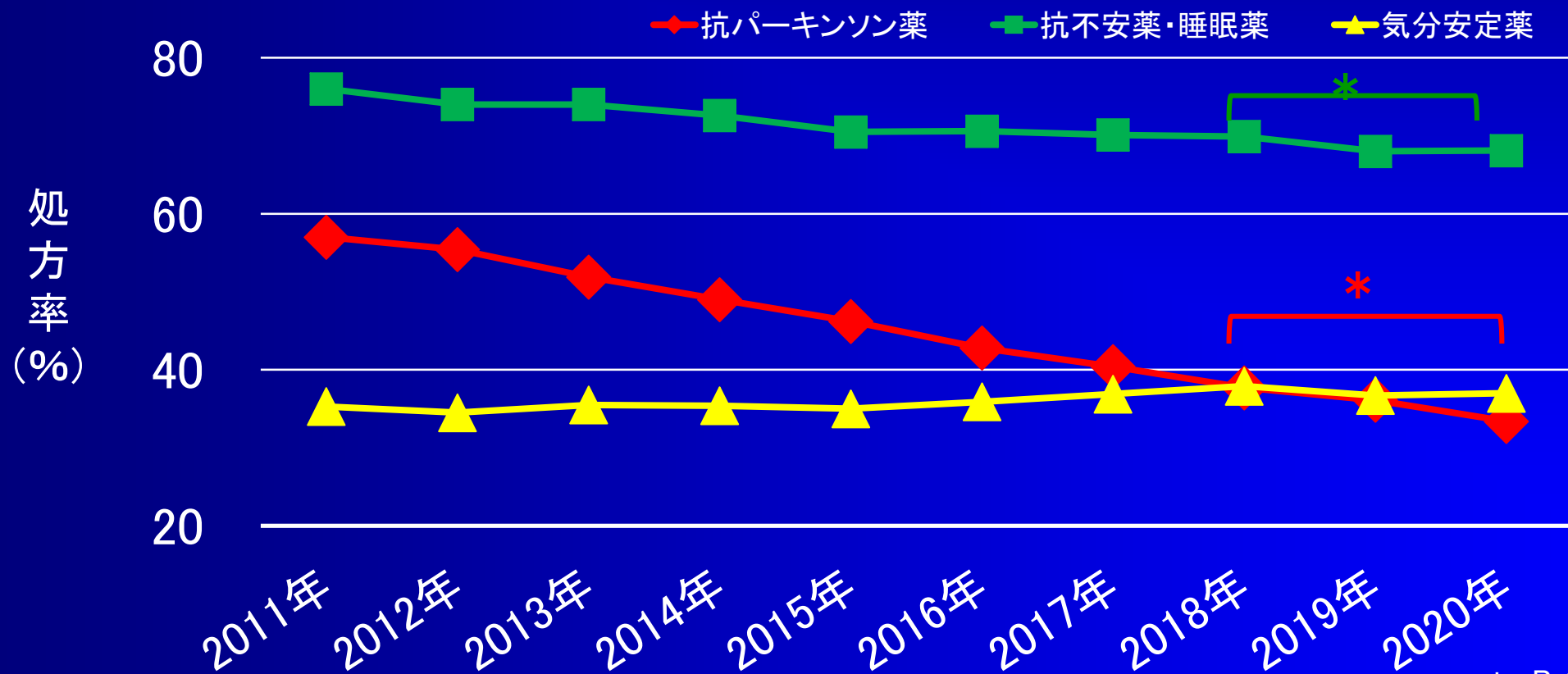
抗精神病薬の投与量と単剤処方率の推移

	2018年	2019年	2020年
単剤化率(%)	42.3	43.3	44.4



各薬剤群の抗精神病薬併用処方率の推移

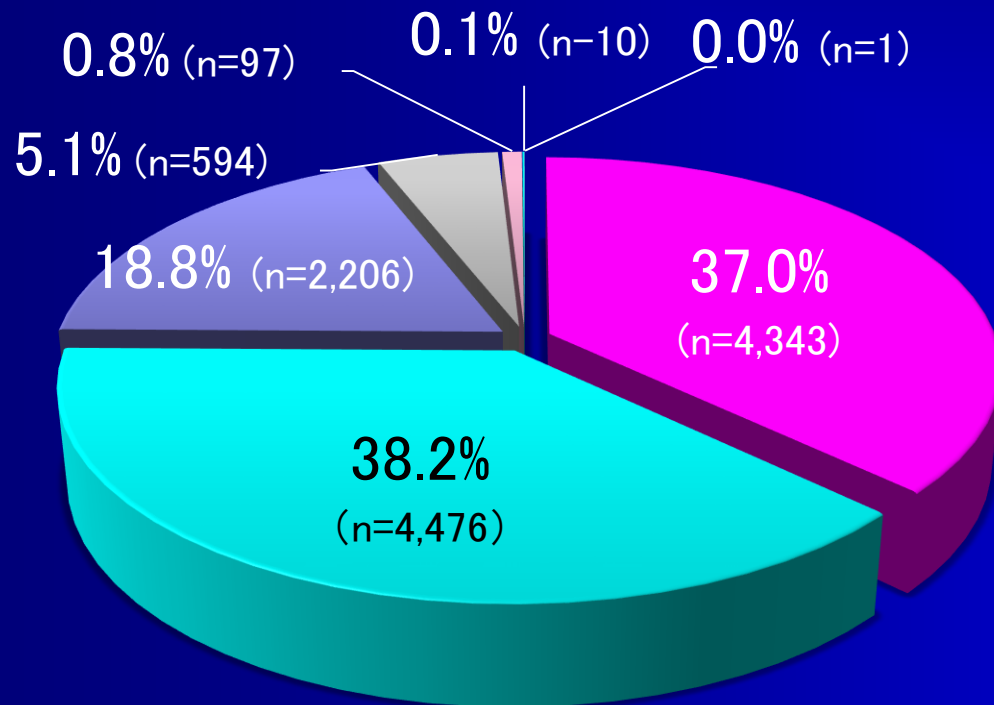
	2018年	2019年	2020年
抗パーキンソン薬 (%)	37.7	36.1	33.4 *
抗不安・睡眠薬 (%)	69.9	68.0	68.1 *
気分安定薬 (%)	37.9	36.7	37.0



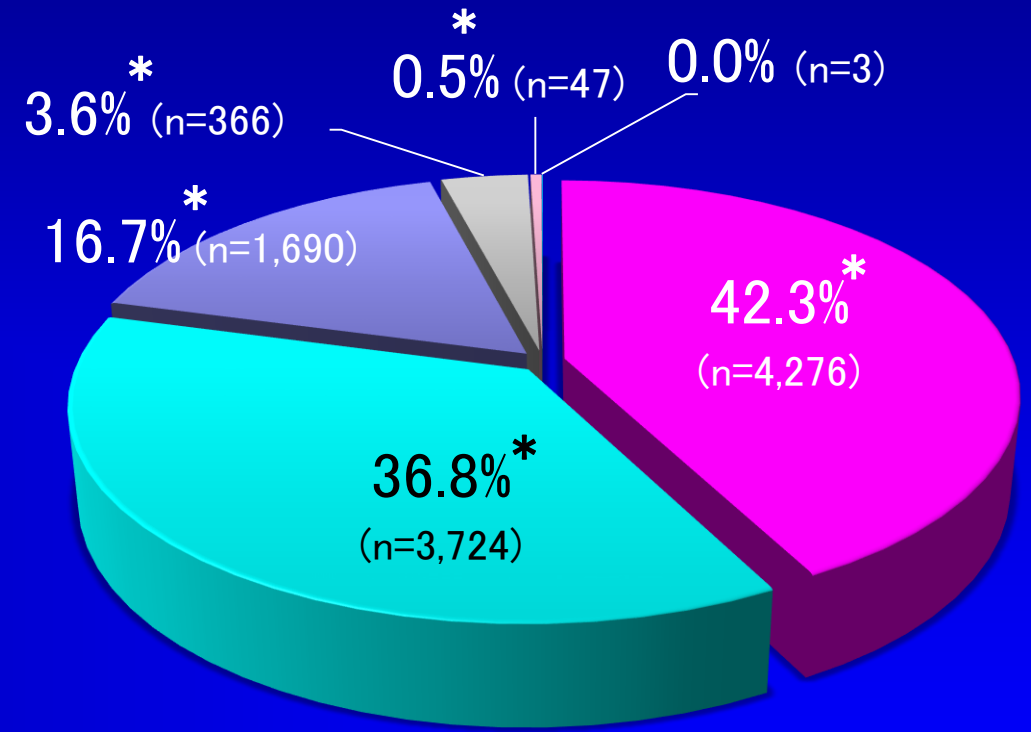
* P<0.05 対2018年, χ^2 検定

BZ系薬剤の剤数別処方割合

2018年 (n=11,727)



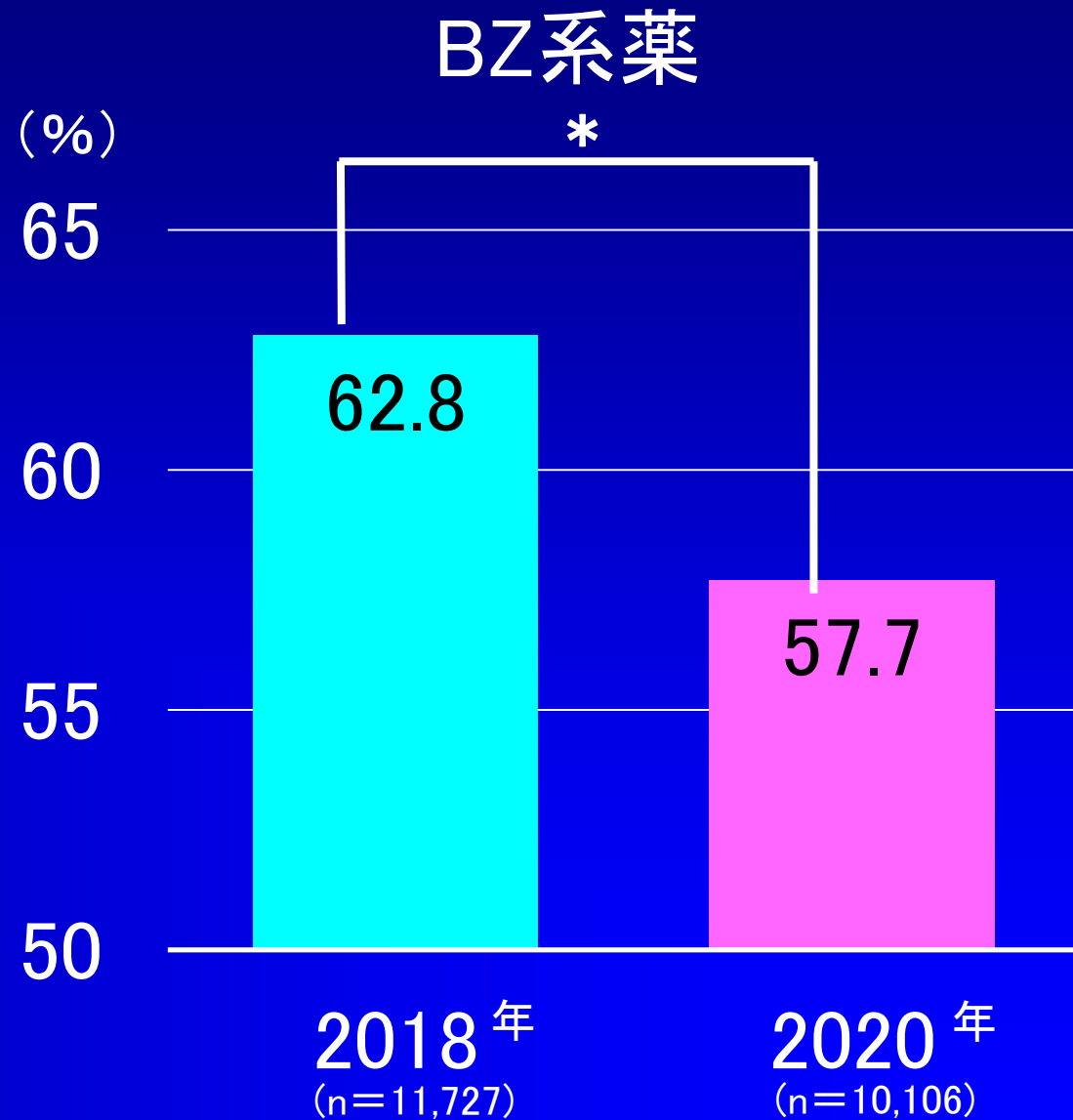
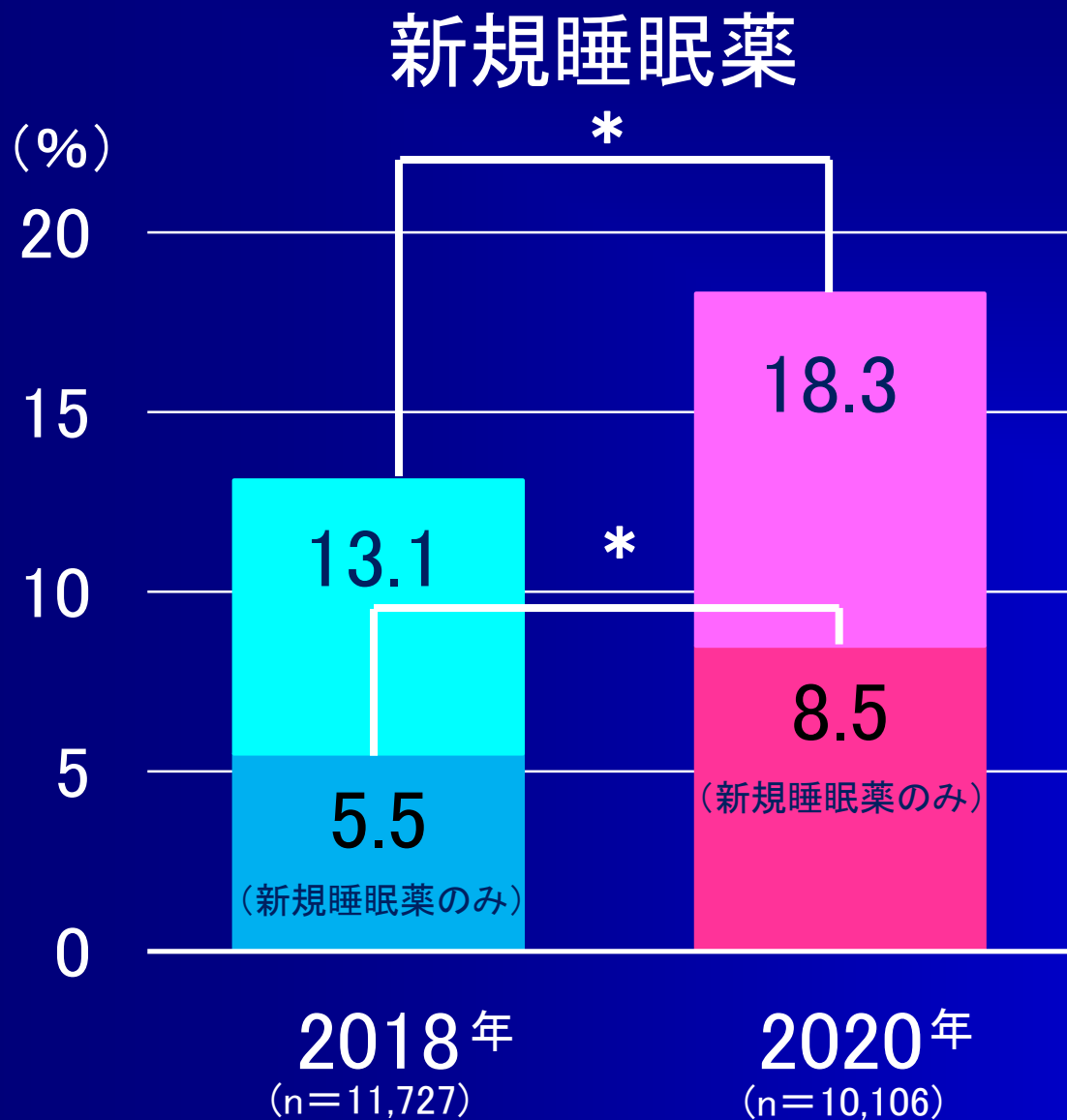
2020年 (n=10,106)



0剂 1剂 2剂 3剂 4剂 5剂 6剂

* P<0.05 対2018年, χ^2 検定

BZ系薬剤と新規睡眠薬の処方率



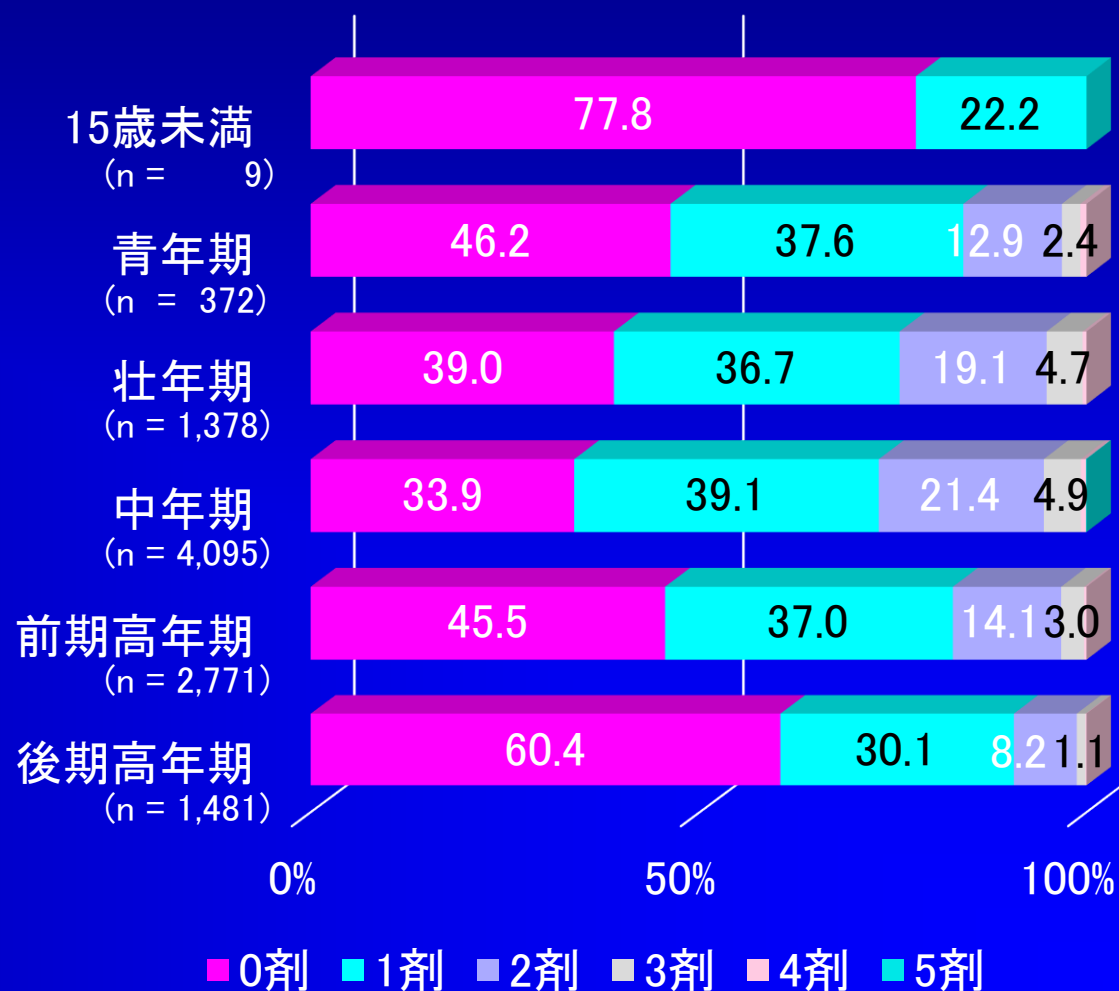
* P<0.05 対2018年, χ^2 検定

各年齢層群におけるBZ系薬の剤数別処方割合

2018年

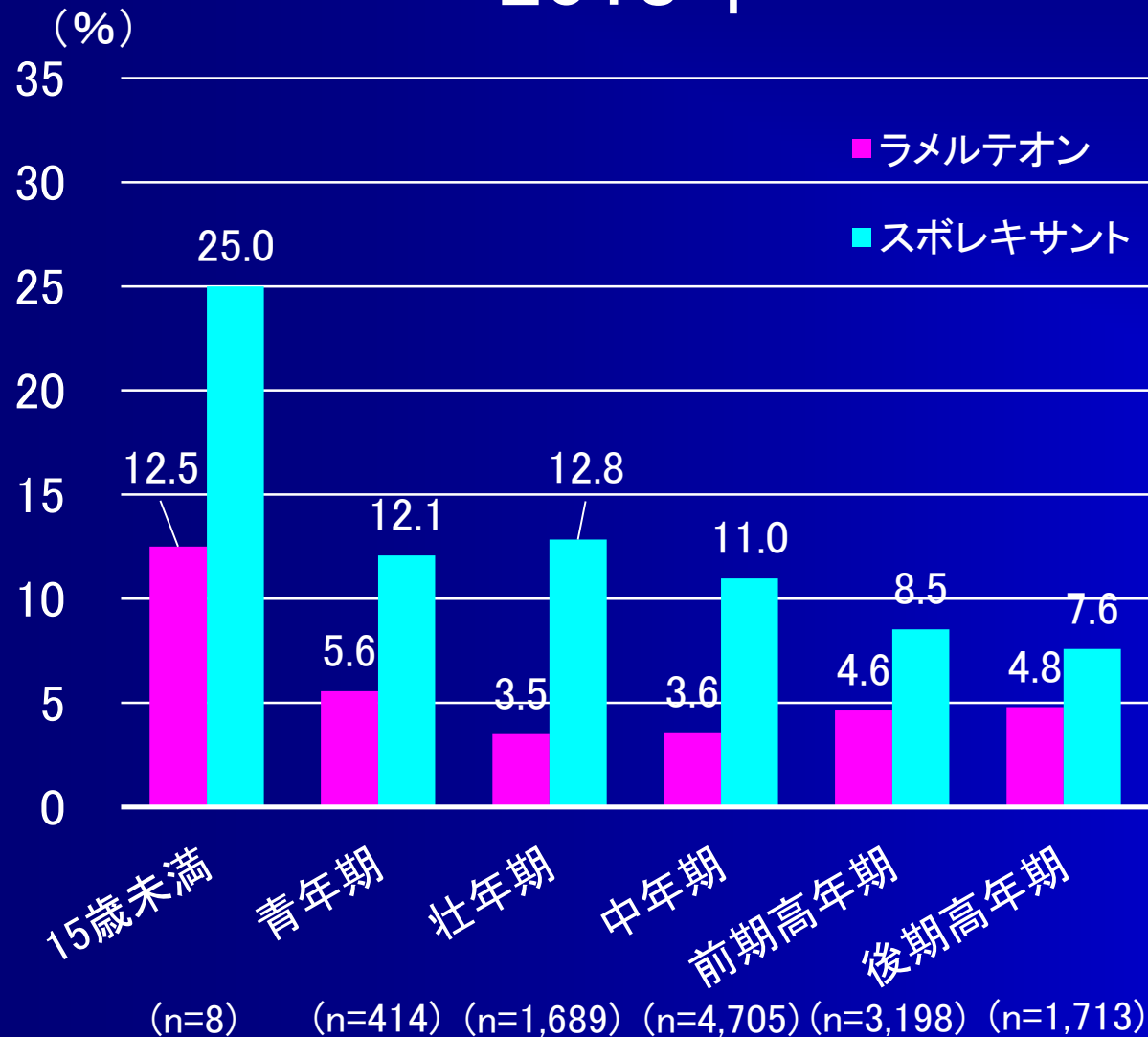


2020年

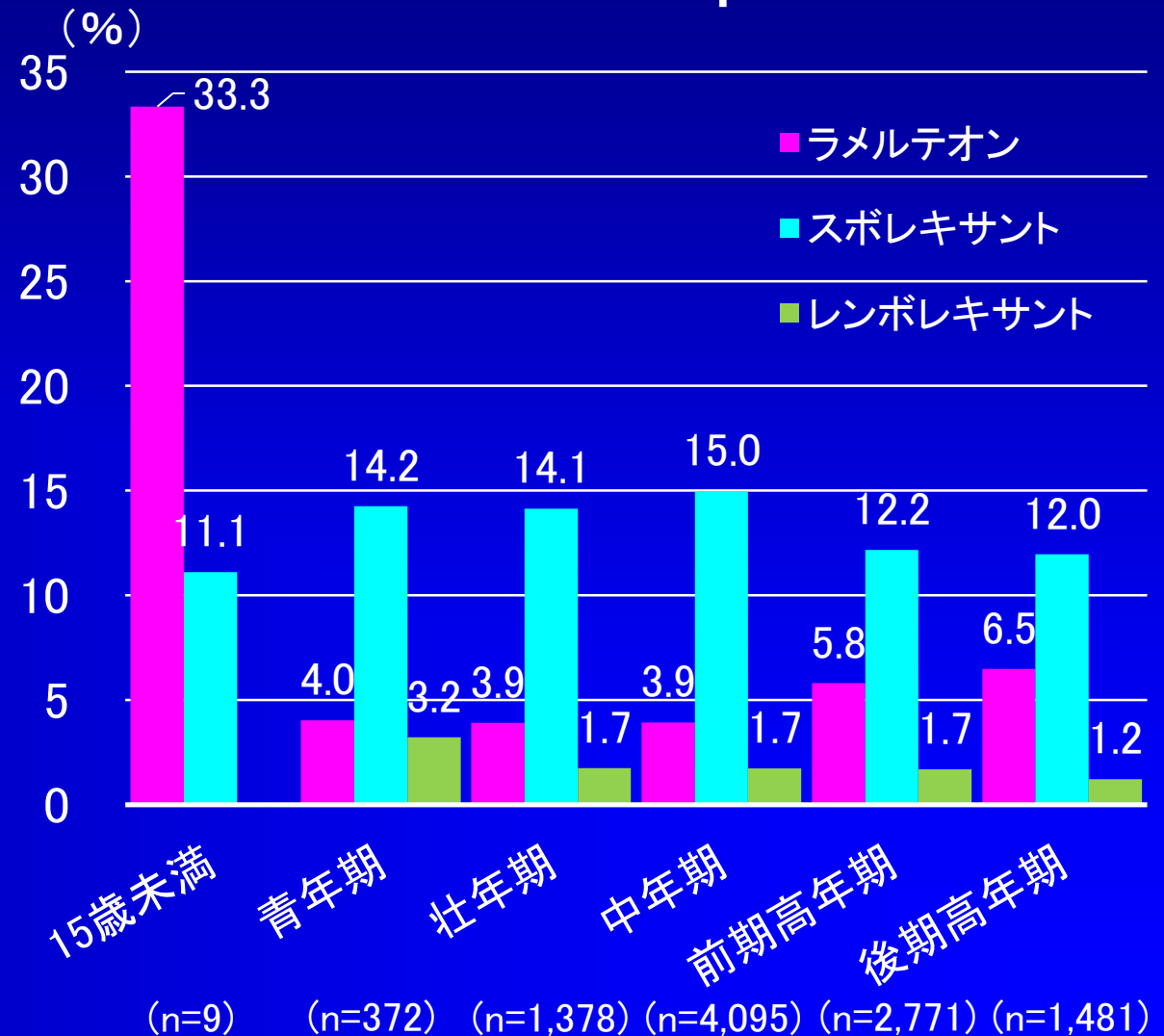


各年齢層群における新規睡眠薬の処方率

2018年

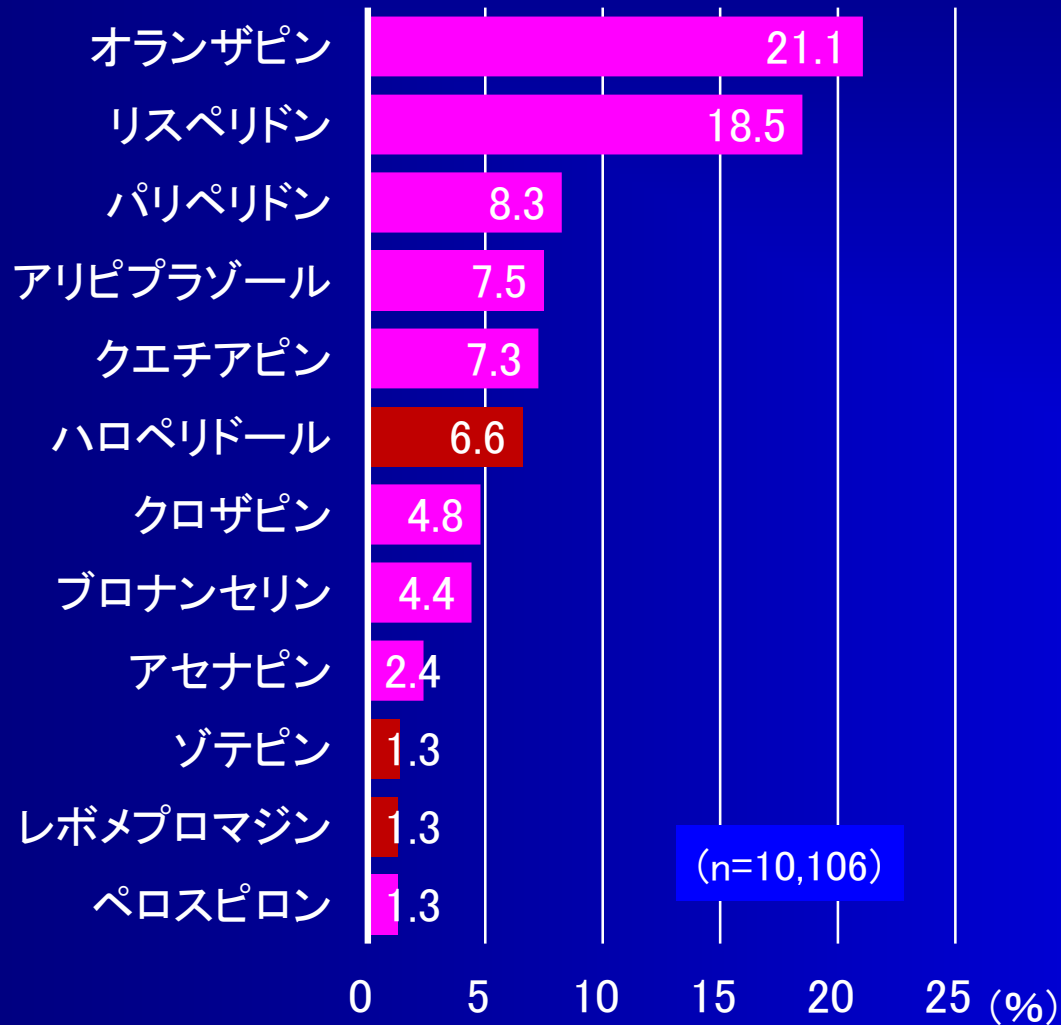


2020年

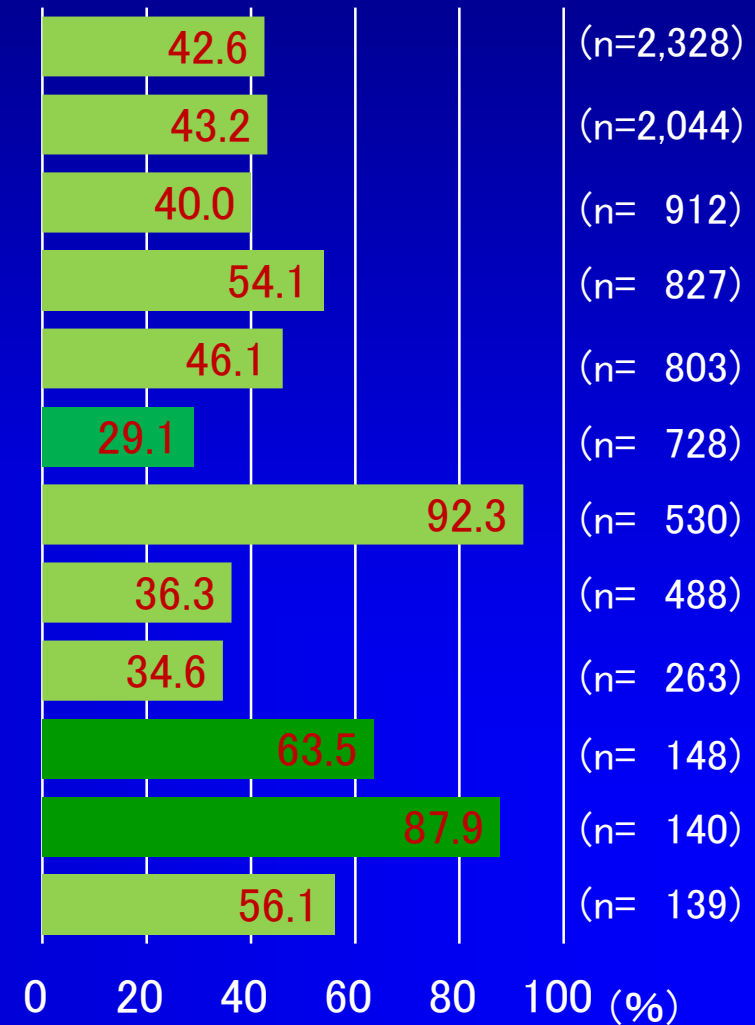


2020年 主剤としての抗精神病薬

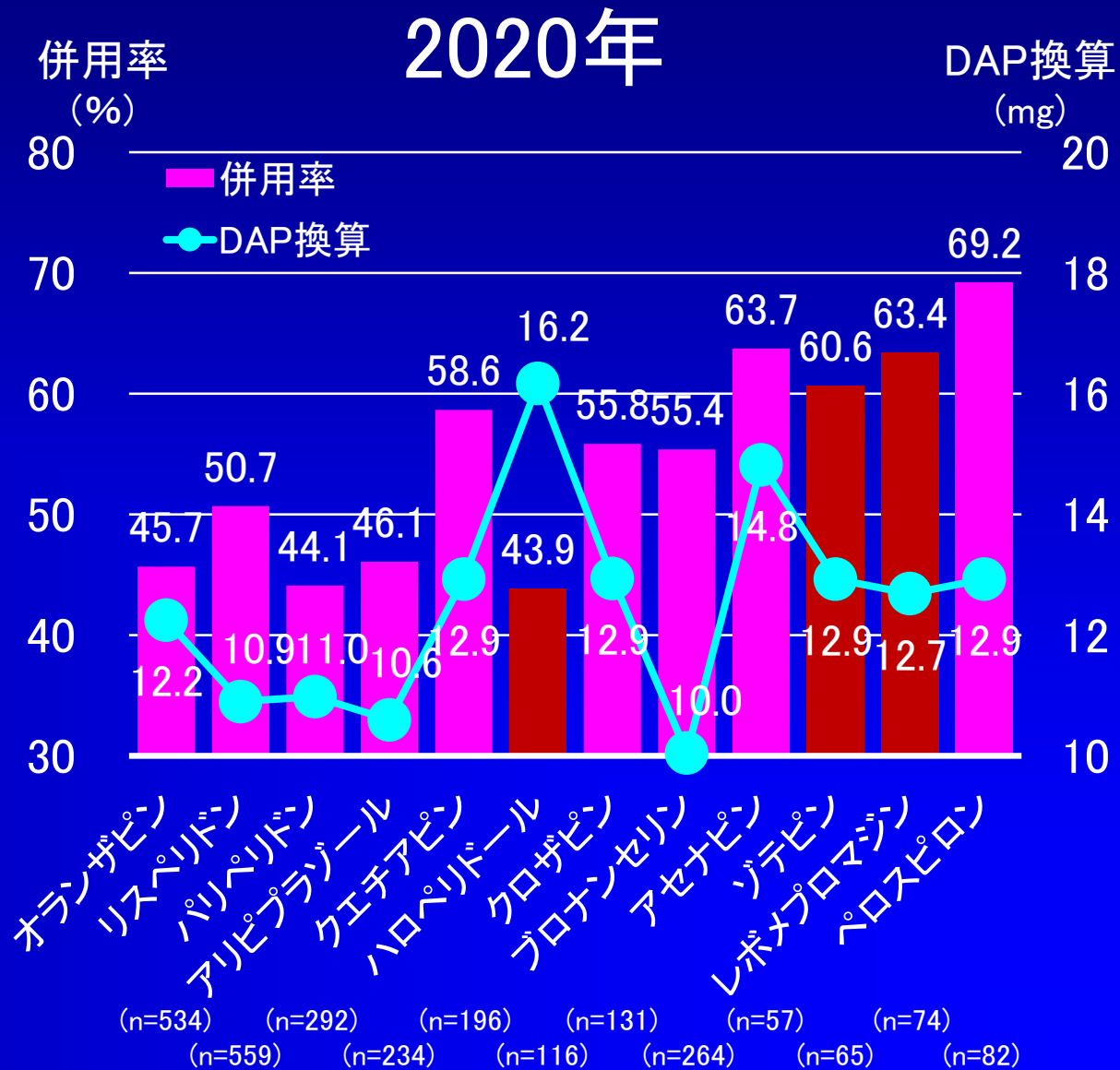
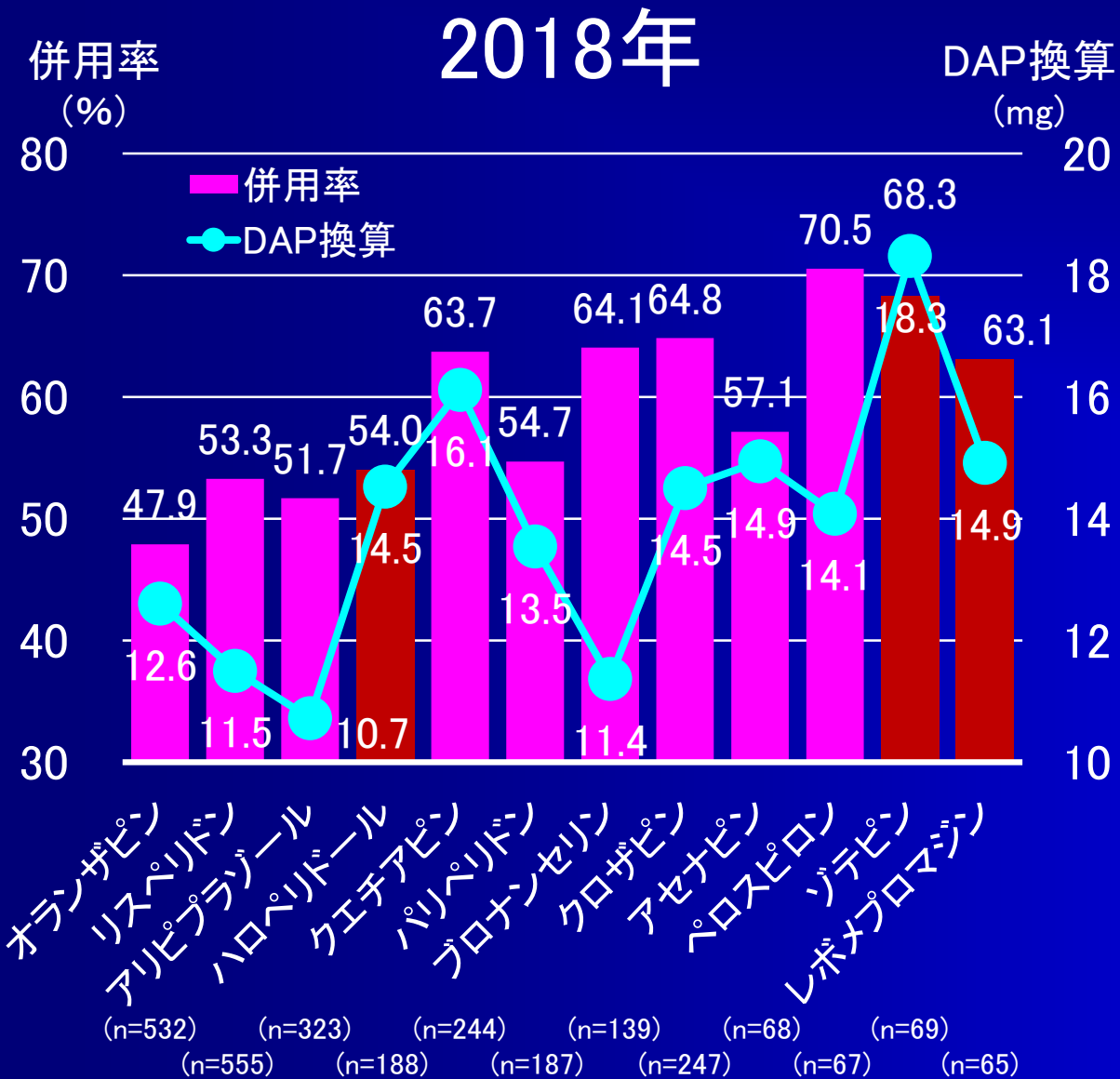
主剤としての選択率



主剤の単剤処方率



抗精神病薬（主剤単剤）とBZ系薬（併用率と投与量）



抗精神病薬(主剤単剤)の睡眠薬・抗不安薬選択順位 (2018年)

Rank	主剤単剤	1	2	3	4	5
1	オランザピン	フルニトラゼハム	ニトラゼハム	スホレキサント	ブロチゾラム	クロナゼハム
2	リスペリドン	フルニトラゼハム	ブロチゾラム	ニトラゼハム	スホレキサント	クロナゼハム
3	アリピプラゾール	フルニトラゼハム	スホレキサント	ニトラゼハム	ブロチゾラム	エスゾピクロン
4	ハロペリドール	フルニトラゼハム	ニトラゼハム	ブロチゾラム	クロナゼハム	スホレキサント
5	クエチアピン	フルニトラゼハム	スホレキサント	ニトラゼハム	ブロチゾラム	クロナゼハム
6	パリペリドン	スホレキサント	フルニトラゼハム	ニトラゼハム	ブロチゾラム	エスゾピクロン
7	ブロナンセリン	フルニトラゼハム	ブロチゾラム	スホレキサント	ニトラゼハム	エスゾピクロン
8	クロザピン	フルニトラゼハム	ニトラゼハム	ブロチゾラム	スホレキサント	クロナゼハム
9	アセナピン	スホレキサント	フルニトラゼハム	エスゾピクロン	ブロチゾラム	ラメルテオン
10	ペロスピロン	ニトラゼハム	フルニトラゼハム	スホレキサント	ブロチゾラム	クロナゼハム
11	ゾテピン	フルニトラゼハム	ニトラゼハム	クロナゼハム	ブロチゾラム	ラメルテオン
12	レボメプロマジン	ニトラゼハム	フルニトラゼハム	ブロチゾラム	クロナゼハム	スホレキサント

抗精神病薬(主剤単剤)の睡眠薬・抗不安薬選択順位 (2020年)

Rank	主剤単剤	1	2	3	4	5
1	オランザピン	スホレキサント	ニトラゼハム	フルニトラゼハム	ブロチゾラム	クロナゼハム
2	リスペリドン	ニトラゼハム	スホレキサント	フルニトラゼハム	ブロチゾラム	クロナゼハム
3	パリペリドン	スホレキサント	フルニトラゼハム	ニトラゼハム	ブロチゾラム	クロナゼハム
4	アリピプラゾール	スホレキサント	ニトラゼハム	フルニトラゼハム	ラメルテオン	ブロチゾラム
5	クエチアピン	スホレキサント	フルニトラゼハム	ニトラゼハム	ブロチゾラム	クロナゼハム
6	ハロペリドール	フルニトラゼハム	ブロチゾラム	ニトラゼハム	クロナゼハム	スホレキサント
7	クロザピン	ニトラゼハム	スホレキサント	フルニトラゼハム	ブロチゾラム	クロナゼハム
8	ブロナンセリン	スホレキサント	ブロチゾラム	フルニトラゼハム	ニトラゼハム	ラメルテオン
9	アセナピン	スホレキサント	フルニトラゼハム	クロナゼハム	ニトラゼハム	エスゾピクロン
10	ゾテピン	フルニトラゼハム	ニトラゼハム	ブロチゾラム	スホレキサント	クロナゼハム
11	レボメプロマジン	ニトラゼハム	フルニトラゼハム	スホレキサント	クロナゼハム	ブロチゾラム
12	ペロスピロン	ニトラゼハム	スホレキサント	ブロチゾラム	クロナゼハム	フルニトラゼハム

考 察

- 2020年の抗精神病薬の剤数、投与量(CP換算)の平均は2018年に対し、有意に減少し、単剤処方率は有意に増加していた。このことは、抗精神病薬の適正使用が進んでいることが考えられる。
- BZ系薬剤の処方動向は、2018年と比較するとBZ剤系薬剤処方率が有意に減少、新規睡眠薬の処方率は有意に増加しており、抗不安薬・睡眠薬のDAP換算値の減少に関与していると考えられる。新規睡眠薬の登場による処方傾向の変化は、BZ系薬剤処方の適正化に寄与していると考えられる。
- 抗精神病薬の種類が、BZ系薬の併用率と投与量に影響を与えるかを検討したが、統一した見解は得られなかった。今後、患者の状態を反映できるような指標を加えた研究が必要と考えられる。